

## 株式会社バンダイナムコフィルムワークス

2025年7月24日

バンダイナムコフィルムワークスが初挑戦  
『九龍ジェネリックロマンス』でアニメと実写のWメディア化  
～同一プロデュースチームによって相互連携の同時展開を実現～

## TOPICS

- ◆アニメ、実写のWメディア同時展開による相互連携施策でIPの魅力を訴求
- ◆バンダイナムコフィルムワークスならではの同一プロデュースチームによる企画・製作と他にはない座組
- ◆Wメディアの強みを最大限に活かす『九龍ジェネリックロマンス』の魅力
- ◆原作を軸にアニメ、実写それぞれのオリジナルエピソードを付加し再度原作を読みたくなる展開に
- ◆8月29日(金)から公開される映画『九龍ジェネリックロマンス』の見どころ
- バンダイナムコフィルムワークスの中期計画 重点戦略の一つ「映画事業の強化・拡大」

株式会社バンダイナムコフィルムワークス(本社:東京都杉並区、代表取締役社長:浅沼 誠、以下バンダイナムコフィルムワークス)は、アニメーションや実写などの映像作品を企画、製作し、テレビ、映画、配信など様々なメディアを通して、世界中の皆様幅広くお届けしています。

当社は2025-2027年度中期計画の重点戦略の1つとして「映画事業の強化・拡大」を掲げており、その新たな試みの一つとして、今回「週刊ヤングジャンプ」(集英社)で連載中の人気漫画『九龍ジェネリックロマンス』を、TVアニメと実写映画のWメディア同時展開に挑戦しました。企画段階から一つのプロデュースチームによる同時製作、同時展開は映像業界でも珍しく、バンダイナムコフィルムワークスにおいても初のチャレンジとなります。そこで、企画のねらいやそれぞれのメディアを通して伝えたい作品の魅力などについて、当社の有澤プロデューサーに話を聞きました。

### ◆なぜWメディア、同時展開に挑戦したのか？ 相互連携施策でIPの魅力を訴求

当社ではこれまで様々な作品を生み出してきましたが、IPが持つ魅力の核となる部分をより多面的に表現すること、また、お客様に様々な形で楽しんでいただけるように間口を広く長くとる試みとして、TVアニメと実写映画のWメディア化、かつ同時展開に挑戦してみたい、という発想が発端です。展開のタイミングやプロモーションなどを連携させることで、アニメを見て作品のファンになってくだ



さった方が、放送終了後もその熱を持ったまま実写映画を楽しみにして下さるなど、より広く長く作品を楽しんでいただくことができると思いました。また、アニメは漫画や小説などの原作に近い形で映像化できるところが大きな強みでもありますが、そのアニメの作り方を理解しているスタッフが実写映画も手掛けることで、より原作に寄り添った作品づくりができるのではないか、と考えました。

### ◆同一プロデュースチームによる企画・製作と、他にはない座組で差別化を図る

今回、アニメと実写を同じプロデュースチームが手掛けたことも新しい試みでした。一つの作品をアニメと実写それぞれでメディア化されている作品は多くありますが、企画段階から同時展開をねらい、かつ両方を同じプロデュースチーム、プロデューサーが手掛ける、というケースは少ないと思います。それは、そもそもアニメと実写を同じ会社で企画・製作し、それを現場レベルでスタッフが連携して担当する、という環境がなかなかないことが理由の一つだと思います。バンダイナムコフィルムワークスはその両方を手掛けてきた土壌があり、私自身も、これまでアニメや特撮、深夜ドラマなど様々な映像作品を担当してきました。両方にアプローチできる環境と人材がいたからこそそのチャレンジになったと思います。昨今はアニメも実写も制作本数が非常に多く、他にない新しい挑戦をして差別化を図っていくことも必要だと考えています。

### ◆なぜ『九龍ジェネリックロマンス』だったのか？それぞれのメディアの強みを活かす作品の魅力

企画に当たっては、アニメと実写の両方の特徴を活かせる作品を検討しました。その中で『九龍ジェネリックロマンス』が決め手となったのは、しっかりとした人間ドラマが軸にあることと、アニメ、実写どちらでも映像映えする魅力的な“九龍”が舞台であったことがポイントでした。

その他にもラブロマンスやミステリーたっぷりの設定など、引き込まれる要素が沢山ある作品ですので、ストーリー展開もそれぞれのメディアの強みを捉えながら企画を進めていきました。アニメは毎週1話ずつ放送されるTVシリーズであることを前提に「一体どうなるの!？」と毎週次が気になるような展開にする一方、実写映画は一気に結末まで見せることができるので、集中して見ていただくことで生まれる感情の流れを大切に「1つの切ないラブロマンスを見届けた」と思える作品にしました。



### ◆原作ファンも、もう一度原作を読みたくなる!?

各メディアで強調する部分があるということは、取捨選択も必要になってきます。ここは同じプロデュースチームだったからこそ2つの選択肢を持つことができ、思い切った判断ができたと思います。アニメ、実写それぞれが原作漫画を軸にコラージュのようになっているので、未読の方は読みたくなることは勿論、原作からアニメ、実写とお楽しみいただいた方も、もう一度原作に立ち返りたくなると思います。

また、原作が連載中にもかかわらずこうした展開ができたのは、原作者の眉月じゅん先生をはじめ、関係各所・スタッフの皆様にもこのWメディア化という企画を面白いと思っていただき、多大なるご協力をいただけたからこそ実現できました。この後は、いよいよ原作での結末も待っていますので、ぜひそれぞれの魅力を味わっていただきたいと思います。



### ◆いよいよ 8 月 29 日(金)から全国公開！映画『九龍ジェネリックロマンス』の見どころは？

本作の舞台はかつて香港に実在した“九龍城砦”ですが、その風景を再現するため、今なお狭く雑多な路地裏の商店など、誰もがなぜか懐かしさを感じるような古い街並みを残す台湾でロケをさせていただきました。セットやCGではなく海外でのロケだからこそ生まれた“九龍”のじっとりした湿度の感触や、リアルならではの街が醸し出す雰囲気、そして何より生身の人間が演じるからこそ表現できる心の揺れ動きが見どころです。ともすると謎に包まれたストーリーと不可解な“九龍の謎”に隠れてしまいがちな、主人公たちが抱える苦しく辛い状況、あがきながらも前に進もうとするある種の痛み、ロマンスの素晴らしさは、ぜひ実写映画を見て感じていただきたいです。また、アニメと実写であえて視点を変えて表現をしている部分もありますので、ぜひ両方お楽しみいただければと思います。



### ◆今回得た経験と今後に向けて

今回、シナリオや演出をはじめ宣伝まで、すべての工程において2つの視点を持ちながら作品と向き合うことで、これまでよりさらに原作の本質の部分を深く考えながら映像をつくりあげていきました。この考え方は、アニメや実写単独だったとしても、また、原作の有無に関わらず、IPの本質を捉えて作品をつかっていく、という点において大きな経験値となりました。現在、全世界でアニメの市場規模は拡大していますが、この経験を活かし、さらに世界中を感動の渦に巻き込むような“いいもの”を生み出し、届けていきたいと思っています。

---

### ■バンダイナムコフィルムワークスの中期計画 重点戦略の一つ「映画事業の強化・拡大」

当社は、2025-2027 年度の中期経営計画において、「映画事業の強化・拡大」を掲げています。これまでも映画事業については積極的に取り組み、「第 48 回 日本アカデミー賞」では、実写映画の『夜明けのすべて』（バンダイナムコフィルムワークス＝アスミック・エース配給）が優秀作品賞、優秀監督賞、優秀主演女優賞を、アニメ映画の『機動戦士ガンダム SEED FREEDOM』（松竹・バンダイナムコフィルムワークス共同配給）が優秀アニメーション作品賞を受賞しています。

今中計においてもいい作品をつくり続けるのは勿論のこと、より多彩な展開を実現するため、今回の W メディア同時展開をはじめ、映画配給部門設置による自社配給の強化、実写プロダクション室の設置による実写映画の自社制作など、さまざまなアプローチで重点戦略を推進してまいります。

## 『九龍ジェネリックロマンス』について

累計発行部数 150 万部超え、「恋は雨上がりのように」の眉月じゅん最新作漫画にして超人気ミステリー・ラブロマンス「九龍ジェネリックロマンス」(集英社 / 週刊ヤングジャンプ連載)を同一プロデュースチームによりアニメ&実写で W メディア化。TV アニメの主演を白石晴香(鯨井令子役)と杉田智和(工藤 発役)、実写映画の主演を吉岡里帆(鯨井令子役)と水上恒司(工藤 発役)が務めます。

【ストーリー】ノスタルジー溢れる街・九龍城砦(くーろんじょうさい)の不動産屋で働く鯨井令子(くじらいれいこ)は、職場の先輩・工藤発(くどう はじめ)に淡い恋心を抱いていた。ふと見つけた一枚の写真から、工藤には過去に自分と瓜二つの婚約者がいたことを知る。失くした記憶、もう 1 人の自分の正体、そして九龍の街に隠された巨大な秘密…過去・現在・未来が交錯する中、恋が、秘密を解き明かすー

・『九龍ジェネリックロマンス』W メディア化公式サイト

<https://kowloongr.jp/>

## バンダイナムコフィルムワークス

### プロデューサー 有澤 亮哉(ありさわ りょうや)

2011 年にバンダイビジュアル(現バンダイナムコフィルムワークス)入社後、円谷プロダクション作品のウルトラマンシリーズを担当し、アニメ『さばげぶっ!』でアシスタントプロデューサーを務める。その後プロデューサーとしてアニメ『荒野のコトブキ飛行隊』や深夜ドラマ『SEDAI WARS(セダイウォーズ)』、アニメ『ブルーロック』シリーズなど、アニメや特撮など様々な映像作品を手がける。



## 株式会社バンダイナムコフィルムワークス



株式会社バンダイナムコフィルムワークスは、映像作品を企画、製作し、テレビ、映画、配信など様々なメディアを通してお届けするだけでなく、著作権・版権の管理運用、映像関連商品の企画・販売や映像関連サービスを通して、世界中の皆様幅広く発信しております。川上から川下まで担う総合映像エンターテインメント企業として、“いいもの”を生み出し、しっかりと皆様にお届けし続けてまいります。

### 主な事業内容

アニメーションなどの映像コンテンツおよび映像関連サービスの企画・製作・販売および著作権の管理・運用

<https://www.bnfw.co.jp/>

### 【著作権表記】

アニメ『九龍ジェネリックロマンス』 ©眉月じゅん/集英社・「九龍ジェネリックロマンス」製作委員会

実写映画『九龍ジェネリックロマンス』 © 眉月じゅん/集英社・映画「九龍ジェネリックロマンス」製作委員会